Tsukuba Psychological Research
1996, **18**, 75-95

小学生の自己決定経験の調査

筑波大学心理学系　新井邦二郎

An investgation of self-determination experience of elementary school children

Kunijiro Arai *(Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305, Japan)*

This study investigated the self-determination experience of elementary school children from first grade to sixth grade. The situations of self-determination experience investigated in this paper were arising, toileting after arising, changing clothes and breakfasting, selecting clothes and hosiery, buying clothes and hosiery, initiating home study, determining contents and time of home study, determining private school, selecting club in school, and determining class duty. The main results were: (1) the situations of low level self-determination experience were arising, buying clothes and hosiery, and determining private school; (2) boys showed lower level self-determination experience than girls in all almost situations.

Key words: self-determination, self-determination experience, situations of self-determination, sex difference, elementary school children.

近年の心理学研究の中で，自己決定(self-determination)は，「活動を行うことを自己の意志で決定した」という認知や感情として理解され，主に動機づけの文脈で研究が盛んに行われている(deCharms, R. 1968, 1976, 1984, Deci, E.L. 1975, 1980, Deci, E.L. & Ryan, R.M. 1985a, 山地，1988)．とりわけ，この文脈で集中的に研究を進めてきたDeci, E.L. (1980)は，自己決定は人間の基本的欲求のひとつと考え，それの阻害は，精神的健康のみならず肉体的健康にまで影響を及ぼすと考えている．それゆえ，動機づけ要因としての自己決定は，単に学習や労働が能率よく行われるために必要であるばかりではなく，生活の質(QOL)の維持や向上のためにも欠くべからざるものであると考えられる．

Deciたちよりも前に，この自己決定という言葉を使ったのは，Angyal, A. (1941)である．人のパーソナリティを分析し，自律性の重要な特性として自己決定の傾向をとらえた彼は，人が環境を処理する能力を習得することによって，自律性を増大させ，自己決定の傾向を高めていくとした．このようにAngyalは，人格特性としての自己決定の傾向を重視したが，その後Deciたちも，人格傾向としての自己決定の個人差に興味をもち，それを測定する質問紙を開発している(Deci, E.L. & Ryan, R.M. 1985b)．

本研究も，広い意味の動機づけの要因としての自己決定に対しても，また人格の特性としての自己決定に対しても，等しく興味をもっている．なぜなら，私たちが仕事や学習などの毎日の生活のなかで生き生きとした活動を営んでいくためには，動機づけ要因としての自己決定が重要となるし，またそうした動機づけ要因としての自己決定を常日頃もつことをコンスタントに保証してくれる内部条件(主体側の条件)が人格特性としての自己決定であるからである．動機づけ要因としての自己決定と人格特性としての自己決定とを同時に着目し，同じ研究の俎上に乗せるために，本研究は「自己決定の経験」に注目する．「自己決定の経験」は，一面では，無条件ではないにしても，「活動を行うことを自己の意志で決定した」という認知や感情を伴い，動機づけ要因としての自己決定を導き出す客観的な出来事となるし，他面では，人格特性としての自己決定傾向が育っ

ていく発達的な条件となる.

現在の日本では，子どもたちの自立や自律の立ち遅れが指摘され，いわゆる親の過保護的・過干渉的な養育態度と学校の管理主義とが批判を受けている．とりわけ，家庭では少子化のもと手や目の行き届いた養育と引き換えに，子どもの行動一つ一つに対して親側の「支配」がすすみ，子どもは「他者決定」を強いられている面が強いと考えられる．このような現状の中で，いったい子どもの「自己決定の経験」がどの程度行われているのか(反対に，行われていないのか)を実態として把握することは，大変有意義なことである.

本研究は，小学校1年から6年までの，主に家庭そして部分的に学校での「自己決定の経験」の実態を報告する.

調査A　小学校1～3年生の自己決定経験の調査

目　的

日常生活場面および学習場面における小学1年生，2年生，3年生など小学校低学年児童の自己決定の経験の実態について親に対する質問紙を通して調査をする.

方　法

被調査児　首都圏内の小学校A，Bの2校の児童の保護者．小学校低学年児童を対象とするために，児童に直接にではなく，その保護者に質問紙に回答をしてもらった．A校1年48名(男子26名，女子22名)，2年52名(男子29名，女子23名)，3年60名(男子27名，女子32名)，B校1年38名(男子20名，女子18名)，2年44名(男子13名，女子31名)，3年52名(男子30名，女子22名)，合計294名の児童の保護者から回答を得た．うち回答不備の1名分を除き，293名分を分析の対象とした.

質問紙の内容　以下に示すような重要と思われる日常生活場面および学習場面において児童が自己決定の経験を有しているか否かについて尋ねた．なお同時に，きょうだい位置(一人っ子，末子，中間子，長子)や母親の仕事(家の外の仕事に従事，家の中の仕事に従事，仕事を有していない)，父親の生活の様子(食事が毎日家族と一緒か否か)等も尋ねた.

a 朝の起床
b 朝の起床後のトイレ
c 朝の起床後の着替え
d 朝の食事
e 朝に身に付ける服やクツシタの選択
f 服やクツシタの購入
g 家での学習の開始
h 家での学習の内容
i 家での学習の時間
j 学習塾
k 習いごと

なお，具体的な質問の仕方は，次の結果のところを参照.

調査年月　1994年10月，11月

手続き　学級担任の教師から各児童に手渡し，約1週間後に学級担任の教師が回収した．回収率は，約94％であった.

結　果

1）朝の起床の自己決定

朝の起床のとき，どのように起きていますか？
①ほとんどいつも，家の人(たとえばお母さんやお父さん)に起こされて，起きています.
これに○をつけた人に聞きます.
＊いつも，だいたい何回ぐらい，起こされて起きますか？
(　　)ぐらい.
＊また，家の人は，どのような言葉で，お子さんを起こしますか？
家の人の言葉(　　)
②自分から起きることも，家の人に起こされて起きることも，半分ぐらいです.
③ほとんどいつも，子どもは自分から，朝，起きています.

Table 1は，上の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる.

Table 1　朝の起床の自己決定の学年別結果：人数と(％)

	①家の人に起こされる	②半々である	③自分から起きる
1年	39 (45.3)	24 (27.9)	23 (26.7)
2年	47 (49.0)	28 (29.2)	21 (21.9)
3年	56 (50.5)	33 (29.7)	21 (18.9)

$x^2=1.66$　$df=4$　$p>0.05$

ア　「家の人に起こされる」児童は，各学年約50％いるが，学年が上がるにつれてその割合は高くなる傾向が見られる.

イ　「自分から起きる」児童は，各学年約20％前後であるが，学年が上がるにつれてその割合は低く

なる傾向が見られる．

Table 2は，家の人から何回起こされるかの学年別結果である．この表から次のことがわかる．

Table 2　朝の起床で起こされる回数の学年別結果：人数

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回~
1年	13	9	10	1	3	0	0	0
2年	13	16	11	1	2	0	0	0
3年	14	24	8	1	3	1	4	0

ア　1年で最も多い回数は1回(約36％)であるが，2年，3年では2回(それぞれ約37％，44％)となり，学年が上がると起こされる回数が増している．

イ　1年と2年では起こされる回数が1～5回の範囲であるが，3年では1～7回と範囲が広くなっている．

Table 3は，上の質問に対する性別の回答を示す．男児と女児では，ほとんど違いはなく，50％近い児童が「家の人に起こされ」，約20％を少し越える児童が「自分から起きている」．

Table 3　朝の起床の自己決定の性別結果：人数と(％)

	①家の人に起こされる	②半々である	③自分から起きる
男児	72 (49.7)	39 (26.9)	34 (23.4)
女児	70 (47.6)	46 (31.3)	31 (21.1)

$x^2=0.73$　$df=2$　$p>0.05$

Table 4は，上の質問に対するきょうだい位置別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 4　朝の起床の自己決定のきょうだい構成別結果：人数と(％)

	①家の人に起こされる	②半々である	③自分から起きる
一人子	11 (44.0)	8 (32.0)	6 (24.0)
末　子	77 (55.0)	33 (23.6)	30 (21.4)
中間子	12 (36.4)	18 (54.5)	3 (9.1)
長　子	42 (45.2)	25 (26.9)	26 (28.0)

$x^2=15.61$　$df=6$　$p<0.05$

ア「家の人に起こされる」のが最も多い児童は，末子で約55％で，最も少ないのが中間子で約36％である．

イ「家の人に起こされるのと自分から起きるのが半々」は，中間子が最も多く約54％で，最も少なかったのは末子で約23％である．

ウ「自分から起きる」のが最も多い児童は，長子で約28％で，最も少ないのが中間子で約9％である．

Table 5は，児童を起こす際の家の人の言葉を整理したものである．この表から次のことがわかる．

Table 5　朝起こす時の家の人の言葉：頻数と(％)

起きなさい	55 (44.7)
起きる時間だよ	32 (26.0)
おはよう！朝よ	19 (15.4)
○時よ	13 (10.6)
その他（○ちゃん）	4 (3.3)

ア「起きなさい」という指示・命令口調の言葉が最も多い．

イ「おはよう，朝よ」「○時よ」といった児童に起床の自己決定をゆだねるような言葉は，合わせても30％に届かない．

ほかに，母親の仕事について，「家の外の仕事に従事」「家の中の仕事に従事」「仕事をしていない」「その他」の4群に分けて，児童の朝の起床の自己決定の様子を調べたが，4群に差違は見られなかった．また，父親が家族とどのように生活を重ねているかを見るために，「家族といつも一緒に食事をする」「ほとんど一緒に食事をしない」「半々ぐらいである」「その他」の群に分けて，児童の朝の起床の自己決定の様子を調べたが，4群に差違は見られなかった．

2）起床後の最初のトイレの自己決定

①だいたいいつも，家の人に言われてトイレに行きます．
②家の人に言われて行くのと，子どもが自分から行くのとが，半分ぐらいです．
③だいたいいつも，自分からトイレに行きます．

Table 6は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア　1年ですでに90％を越える児童が，「自分からトイレ」に行っている．

イ　2年，3年でも，「家の人に言われてトイレにいく」児童が各1名ずつおり，また「家の人に言われて」と「自分から」とが半々の児童も少数ながらいる．

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょう

Table 6　朝の起床後のトイレの自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人に言われる	②半々である	③自分から行く
1年	0 (0.0)	8 (9.3)	78 (90.7)
2年	1 (1.0)	3 (3.1)	92 (95.8)
3年	1 (0.9)	6 (5.4)	104 (93.7)

$x^2=4.00$　$df=4$　$p>0.05$

だい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

3）起床後の着替えの自己決定

①家の人に「早く着がえなさい」と言われて，着がえをするほうです．
②家の人から何も言われず自分から，着がえをするほうです．

Table 7は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 7　朝の起床後の着替えの自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人に言われてする	②自分から着替える
1年	55 (64.0)	31 (36.0)
2年	52 (54.7)	43 (45.3)
3年	59 (53.6)	51 (46.4)

$x^2=2.56$　$df=2$　$p>0.05$

ア　1年，2年，3年とも，「家の人に言われて着替えをする」児童が半数を越えているが，学年が上がるにつれてその割合は減少している．

イ　「自分から着替える」児童は，1年では約35%であるが，学年が上がるとともに，その割合も増加し，3年では約45%を越える．

Table 8は，上記の質問に対する性別の回答を示す．有意差はないが，「家に人に言われて着替えをする」児童は男児に多く，「自分から着替える」児童は女児に多い傾向が見られる．

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

Table 8　朝の起床後の着替えの自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人に言われてする	②自分から着替える
男児	89 (61.8)	55 (38.2)
女児	77 (52.0)	71 (48.0)

$x^2=2.46$　$df=1$　$p>0.05$

4）朝の食事の自己決定

①家の人に「早く食事をしなさい」と言われて，食事をするほうです．
②家の人からとくに何も言われず自分から，食事をするほうです．

Table 9は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．「家の人に言われて朝の食事をする」児童は，学年による違いがほとんどなく，各学年とも約55%の児童が該当する．したがって，「自分から朝の食事をする」児童は，各学年とも残りの約45%で，これも学年による違いは，ほとんど見られない．

Table 9　朝の食事の自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人に言われてする	②自分から食事する
1年	49 (57.6)	36 (42.4)
2年	52 (54.7)	43 (45.3)
3年	59 (53.6)	51 (46.4)

$x^2=0.31$　$df=2$　$p>0.05$

Table 10は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家の人に言われて朝の食事をする」児童は女児よりも男児に多く，他方「自分から朝の食事をする」児童は女児に多い．

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られない．

Table 10　朝の食事の自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人に言われてする	②自分から食事する
男児	89 (61.8)	55 (38.2)
女児	72 (49.0)	75 (51.0)

$x^2=4.34$　$df=1$　$p<0.05$

5）朝起きて身に付ける服やクツシタの選択の自己決定

①ほとんどいつも，家の人が用意した服やクツシタを身に着けます．
②家の人が用意するのと，子どもが自分で選ぶのとが，半分ぐらいです．
③ほとんどいつも，子どもは自分で選んだ服やクツシタを身に着けます．

Table 11は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 11　朝身に付ける服やクツシタの選択の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
1年	35 (40.7)	27 (31.4)	24 (27.9)
2年	38 (39.6)	25 (26.0)	33 (34.4)
3年	34 (30.6)	27 (24.3)	50 (45.0)

$x^2=6.73$　$df=4$　$p>0.05$

ア　「家の人が用意した服やクツシタを身に着ける」児童は，1年では約40％であるが，学年が上がるにつれて，その割合は減少し，3年では約30％となる．

イ　「自分が選んだ服やクツシタを身に着ける」児童は，1年では30％以下であるが，学年が上がるにつれて，その割合は増大し，3年では45％となる．

Table 12は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家の人が用意した服やクツシタを身に着ける」児童は女児よりも男児に多く，他方「自分が選んだ服やクツシタを身に着ける」児童は男児よりも女児に多い．

Table 12　朝身に付ける服やクツシタの選択の性別結果：人数と(％)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
男児	72 (49.7)	28 (19.3)	45 (31.0)
女児	35 (23.6)	51 (34.5)	62 (41.9)

$x^2=22.16$　$df=2$　$p<0.01$

Table 13は，上の質問に対するきょうだい位置別の回答を示す．「家の人が用意した服やクツシタを身に着ける」児童は一人っ子や長子に多く，他方「自分が選んだ服やクツシタを身に着ける」児童は中間子や末子に多い．

Table 13　朝身に付ける服やクツシタの選択のきょうだい位置別結果

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
一人子	14 (56.0)	6 (24.0)	5 (20.0)
末　子	44 (31.2)	36 (25.9)	61 (43.3)
中間子	8 (24.2)	8 (24.2)	17 (51.5)
長　子	41 (44.1)	28 (30.1)	24 (25.8)

$x^2=15.65$　$df=6$　$p<0.05$

Table 14は，上の質問に対する母親の仕事別の回答を示す．「その他」は主に母親がいないケースである．この表から次のことがわかる．「家の人が用意した服やクツシタを身に着ける」児童は仕事を有していない母親の場合に多く，「自分が選んだ服やクツシタを身に着ける」児童は家の外の仕事の従事している母親および絶対数が少ないが「その他」の場合に多い．

Table 14　朝身に付ける服やクツシタの選択の母親の仕事別結果：人数と(％)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
家の外	40 (31.5)	33 (26.0)	54 (42.5)
家の中	14 (35.0)	13 (32.5)	13 (32.5)
仕事無	49 (44.1)	32 (28.8)	30 (27.0)
その他	1 (12.5)	1 (12.5)	6 (75.0)

$x^2=12.63$　$df=6$　$p<0.05$

なお，上記の質問に対する結果は，父親の様子別などによる違いが見られない．

6）服やクツシタの購入の自己決定

子どもがふだん身に着ける服やクツシタは，お店でどのように求めていますか？
①ほとんどいつも，家の人が選びます．
②家の人が選ぶのと，子どもが自分で選ぶのとが，半分ぐらいです．
③ほとんどいつも，子どもが自分で選んでいます．

Table 15は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 15　服やクツシタの購入の自己決定の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
1年	58 (67.4)	25 (29.1)	3 (3.5)
2年	62 (64.6)	31 (32.3)	3 (3.1)
3年	67 (60.4)	37 (33.3)	7 (6.3)

$x^2=2.10$　$df=4$　$p>0.05$

ア　学年差はほとんど見られない．「服やクツシタを家の人が選ぶ」児童は各学年とも約60％を越えている．

イ　「家の人が選ぶのと，自分で選ぶのとが半々ぐらいの」児童は各学年とも約30％を占めている．

ウ　「自分で選ぶ」児童は，各学年とも約5％程度にすぎない．

Table 16は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「服やクツシタを家の人が選ぶ」児童は女児よりも男児に多く，他方「自分で選ぶ」児童は男児よりも女児にやや多い．

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

Table 16　服やクツシタの購入の自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
男児	110 (75.9)	33 (22.8)	2 (1.4)
女児	77 (52.0)	60 (40.5)	11 (7.4)

$x^2=19.86$　$df=2$　$p<0.01$

7）家での学習の開始の自己決定

①だいたいいつも，家の人から言われて勉強を始めます．
②家の人から言われて始めるのと，自分から始めるのとが，半分ぐらいです．
③だいたいいつも，子どもが自分から，勉強を始めます．

Table 17は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 17　家での学習の開始の自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人に言われてする	②半々である	③自分から開始する
1年	23 (26.7)	44 (51.2)	19 (22.1)
2年	27 (28.4)	47 (49.5)	21 (22.1)
3年	31 (28.2)	61 (55.5)	18 (16.4)

$x^2=1.56$　$df=4$　$p>0.05$

ア　「家の人から言われて勉強を始める」児童は学年の違いはほとんどなく，各学年とも約30%弱である．

イ　「自分から勉強を始める」児童および「家の人から言われて始めるのと，自分から始めるのとが，半分ぐらい」の児童は約30%で，1年と2年はほとんど同じであるが，3年生では「自分から勉強を始める」児童が少し減少し約15%となり，その分だけ「家の人から言われて始めるのと，自分から始めるのとが，半分ぐらい」の児童が約55%と増加している．

Table 18は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家の人から言われて勉強を始める」児童は女児よりも男児に多く，他方「自分から勉強を始める」児童は男児よりも女児にやや多い．

Table 18　家での学習の開始の自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人に言われてする	②半々である	③自分から開始する
男児	54 (37.5)	70 (48.6)	20 (13.9)
女児	27 (18.4)	82 (55.8)	38 (25.9)

$x^2=15.50$　$df=2$　$p<0.01$

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

8）家での学習の内容の自己決定

①だいたいいつも，家の人から言われた内容の勉強をしています．
②家の人から言われた内容と，子どもが自分で決めた内容とが，半分ぐらいです．
③だいたいいつも，子どもが自分で決めた内容の勉強をしています．

Table 19は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 19　家での学習の内容の自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人に言われた内容	②半々である	③自分で決めた内容
1年	30 (37.5)	28 (35.0)	22 (27.5)
2年	21 (23.1)	33 (36.3)	37 (40.7)
3年	28 (27.2)	33 (32.0)	42 (40.8)

$x^2=6.18$　$df=4$　$p>0.05$

ア　「家の人から言われた内容の勉強をする」児童は1年では40%近くいるが，学年が上がると減少し，2年，3年では約25%程度になる．

イ　「自分で決めた内容の勉強をする」児童は1年では30%未満であるが，2年，3年では40%程度になっている．

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られない．

9）家での学習の時間の自己決定

①だいたいいつも，家の人に言われた時間のあいだ勉強します．
②家の人から言われた時間のあいだ勉強する場合

と，子どもが自分で決めた時間のあいだ勉強する場合とが，半分ぐらいです．
③だいたいいつも，子どもが自分で決めた時間のあいだ勉強します．

Table 20は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 20　家での学習の時間の自己決定の年齢別
結果：人数と(%)

	①家の人に言われた時間	②半々である	③自分で決めた時間
1年	29 (34.9)	29 (34.9)	25 (30.1)
2年	16 (17.2)	29 (31.2)	48 (51.6)
3年	24 (22.2)	26 (24.1)	58 (53.7)

$x^2=14.54$　$df=4$　$p<0.01$

ア　「家の人に言われた時間のあいだ勉強する」児童は，1年では約35%いるが，学年が上がるにつれて，その割合は少なくなり，2年，3年では約20%になっている．
イ　「自分で決めた時間のあいだ勉強する」児童は，1年では30%であるが，学年が上がるにつれて，その割合は多くなり，2年，3年では50%以上になっている．

Table 21は，上の質問に対するきょうだい位置別の回答を示す．「家の人に言われた時間のあいだ勉強する」児童は一人っ子や長子に多く，他方「自分で決めた時間のあいだ勉強する」児童は中間子や末子に多い．

なお，上記の質問に対する結果は，性別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られない．

Table 21　家での学習の時間の自己決定の年齢別
結果：人数と(%)

	①家の人に言われた時間	②半々である	③自分で決めた時間
一人子	9 (39.1)	9 (39.1)	5 (21.7)
末　子	29 (21.2)	33 (24.1)	75 (54.7)
中間子	7 (22.6)	8 (25.8)	16 (51.6)
長　子	24 (26.1)	34 (37.0)	34 (37.0)

$x^2=13.79$　$df=6$　$p<0.05$

10）学習塾の自己決定

学習塾に行っていますか？　その学習塾に行くことは，だれが決めましたか？　塾に行っていない人は，④のところに○をつけてください．
①だいたい家の人が決めました．
②家の人と子どもとが，だいたい半分ぐらいずつ決めました．
③だいたい子どもが自分で決めました．
④塾に行っていません．

Table 22は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 22　学習塾に行くことの自己決定の年齢別
結果：人数と(%)

	①家の人が決めた	②半々である	③自分で決めた	④行っていない
1年	4 (4.7)	8 (9.3)	0 (0.0)	74 (86.0)
2年	11 (11.6)	13 (13.7)	7 (7.4)	64 (67.4)
3年	3 (2.8)	10 (9.2)	6 (5.5)	90 (82.6)

$x^2=16.26$　$df=6$　$p<0.05$

ア　1年，3年で80%以上，2年で約70%の児童が，学習塾に行っていない．
イ　1年では，「自分で決めて学習塾に行っている」児童は，皆無であり，「家の人が決めて行く」児童および「家の人と子どもとが半々ぐらいで決めて行っている」児童が10%に満たない数ずついる．
ウ　2年，3年で「自分で決めて学習塾に行っている」児童が現れているが，その数は少なく，10%に満たない．

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られない．

11）習いごとの自己決定

習いごとに行っていますか？　その習いごとに行くことは，だれが決めましたか？　習いごとに行っていない人は，④のところに○をつけてください．
①だいたい家の人が決めました．
　どのような習いごとですか？
　(　　)
②家の人と子どもとが，だいたい半分ぐらいずつ決めました．
　どのような習いごとですか？
　(　　)
③だいたい子どもが決めました．
　どのような習いごとですか？
　(　　)
④習いごとに行っていません．

Table 23は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア　「習いごとに行っていない」児童は，1年，2年で30%近くいるが，3年では約15%ほどに少な

Table 23　習いごとに行くことの自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人が決めた	②半々である	③自分で決めた	④行っていない
1年	14 (16.3)	26 (30.2)	21 (24.4)	25 (29.1)
2年	11 (11.7)	33 (35.1)	22 (23.4)	28 (29.8)
3年	11 (10.1)	44 (40.4)	36 (33.0)	18 (16.5)

$x^2=9.66$　$df=6$　$p>0.05$

くなっている.

イ　「家の人が決めて習いごとに行っている」児童は，1年では15%以上いるが，2年，3年では約10%ぐらいに少なくなっている.

ウ　「子どもが決めて習いごとに行っている」児童は，1年，2年では約20%いるが，3年では約30%と，多くなっている.

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．また，習いごとの種類は，最も多い順からスイミング，ピアノ，習字であるが，これらは「家の人が決めた習いごと」にも，「子どもが決めた習いごと」にも，したがって「家の人と子どもとが，だいたい半分ぐらいずつ決めた習いごと」にも上位3位として含まれている．その他頻度の少ない習いごとの種類でも，「自己決定に特有の習いごと」ようなものは見られない.

調査B　小学校4～6年生の自己決定経験の調査

目　的

調査Aと同様に，日常生活場面および学習場面における小学4年生，5年生，6年生の小学校高学年児童の自己決定の経験の実態について質問紙を通して調査をする.

方　法

被調査児　首都圏内の小学校A，B，Cの3校の児童．小学校高学年児童を対象とするので，児童に質問紙に直接に回答をしてもらった．A校4年92名(男子52名，女子40名)，5年110名(男子54名，女子56名)，6年103名(男子52名，女子51名)，B校4年111名(男子55名，女子56名)，5年113名(男子58名，女子55名)，6年40名(男子23名，女子17名)，C校4年69名(男子33名，女子36名)，5年154名(男子82名，女子72名)，6年66名(男子36名，女子30名)，合計858名の児童から回答を得た．うち回答不備の27名分を除き，831名分を分析の対象とした.

質問紙の内容　調査Aに新たに新項目を付け加える形で，以下に示すような小学校高学年児童に重要と思われる日常生活場面および学習場面において児童が自己決定の経験を有しているか否かについて尋ねた．また，児童から直接に回答を得ることになったので，それぞれの場面での「自己決定が好きか否か」の意識調査も行った．なお同時に，きょうだい位置や母親の仕事，父親の生活の様子等も尋ねた.

a　朝の起床
b　朝の起床後のトイレ
c　朝の起床後の着替えや食事
d　朝に身に付ける服やクツシタの選択
e　服やクツシタの購入
f　家での学習の開始
g　家での学習の内容
h　家での学習の時間
i　学習塾
j　習いごと
k　今年度のクラブ活動の参加
l　学級の係りの選出
m　学級会のテーマの決め方
n　自習時間の学習内容

なお，具体的な質問の仕方は，次の結果のところを参照.

調査年月　1994年10月，11月

手続き　学級担任の教師から各児童に配布し，学級担任の教師が回収した.

結　果

1）朝の起床の自己決定

①ほとんどいつも，家の人(たとえばお母さんやお父さん)に起こされて，起きています.
これに○をつけた人に聞きます.
＊いつも，だいたい何回ぐらい，起こされて起きますか？
(　　)ぐらい.
＊また家の人は，どのような言葉で，あなたを起こしますか？
家の人の言葉(　　)
②自分から起きることも，家の人に起こされて起きることも，半分ぐらいです.
③ほとんどいつも，自分から起きようと思って，朝，起きています.

Table 24は，上の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる.

ア　「家の人に起こされる」児童は，4年では約40%，

Table 24　朝の起床の自己決定の学年別結果：人数と(％)

	①家の人に起こされる	②半々である	③自分から起きる
4年	106 (39.8)	125 (47.0)	35 (13.2)
5年	98 (27.2)	179 (49.5)	84 (23.3)
6年	70 (34.7)	87 (43.1)	45 (22.3)

$x^2=18.90$　$df=4$　$p<0.01$

5年，6年では約30％と少し下がっている．

イ　「自分から起きる」児童は，4年では約10％，5年，6年では約20％と少し上がっている．

Table 25は，家の人から何回起こされるかの学年別結果である．この表から次のことがわかる．

Table 25　朝の起床で起こされる回数の学年別結果：人数

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回~
4年	40	32	11	3	4	2	0	6
5年	49	29	4	1	3	0	0	2
6年	25	22	14	2	1	1	1	3

ア　4年，5年，6年とも1回，2回に起こされる回数が集中している(1回と2回を合わせた割合は4年で73.5％，5年で88.7％，6年で67.1％を占める)．

イ　4年，5年，6年とも，起こされる回数が1～8回以上の範囲に分布しているが，いずれの学年も起こされる回数の多い児童の数はそれほど多くない．

Table 26は，児童を起こす際の家の人の言葉を整理したものである．この表から次のことがわかる．

Table 26　朝起こす時の家の人の言葉：頻数と(％)

起きなさい	111 (71.2)
起きる時間だよ	27 (17.4)
おはよう！朝よ	8 (5.1)
○時よ	6 (3.8)
その他（○ちゃん）	4 (2.6)

ア　「起きなさい」という指示・命令口調の言葉が圧倒的に多い．

イ　「おはよう，朝よ」「○時よ」といった児童に起床の自己決定をゆだねるような言葉は，合わせても30％に届かない．

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られない．

2）朝の起床の自己決定の選好

あなたは，朝，起きるとき，どちらのほうが好きですか？
①家の人に起こされて，起きるほうが好きです．
　そのわけ（　　）
②自分から起きようと思って，起きるほうがすきです．
　そのわけ（　　）

Table 27は，上の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 27　朝の起床の自己決定の選好の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人に起こされるのが好き	②自分から起きるのが好き
4年	59 (22.4)	204 (77.6)
5年	68 (18.8)	294 (81.2)
6年	38 (19.1)	164 (80.9)

$x^2=4.54$　$df=2$　$p>0.05$

ア　「自分から起きるほうが好き」と答える児童は，いずれの学年も約80％いるが，「家の人に起こされるほうが好き」と答える児童も，各学年に約20％いる．

イ　前問のTable 24の結果と比較すると，「自分から起きる」児童は少数であったが，「自分が起きるほうが好き」な児童は圧倒的に多く，その差異は各学年とも大きい．

Table 28は，「自分から起きるのが好き」な理由を整理したものである．「自分で起きたほうが気分がよい」「怒られないで済むから」「ひとに起こされるのが嫌」「自分で起きるとさっぱりにする」「目覚めがいい」「自分で起きるほうがいい」などが上位を占めていて，自分から起きることの爽やかさや行動の自由を求める気持ちがその主な理由になっていることがわかる．

Table 29は，「家の人に起こされるのが好き」な理由を整理したものである．「自分では起きられないから」「遅刻しない」「面倒臭くない」「起こされるまでゆっくり寝ていられる」「寝坊しないように起こしてくれる」「安心できる」などが上位を占め，自分から起床することの効力感の不足や親への依存心を内容とするものが目立つ．

Table 28 「自分から起きるのが好き」な理由：頻数(5以上)

自分で起きたほうが気分がいい	96
怒られないですむから	54
ひとに起こされるのが嫌	30
自分で起きるとさっぱりする	26
目覚めがいい	19
自分で起きられるほうがいい	16
早く起きられる	14
早起きしてのんびりできる	11
好きな時間に起きられるから	10
早く起きれば好きなことができる	9
将来のため	8
起こされるとなかなか起きられない	6
自分で起きないと、寝た気がしない	5
先に起きるから	5
家族に迷惑をかけたくないから	5
特になし	50

Table 29 「家の人に起こされるのが好き」な理由：頻数(5以上)

自分では起きられないから	27
遅刻しない	21
起こされるまでゆっくり寝ていられる	15
面倒臭くないから	14
寝坊しないように起こしてくれるから	8
安心できる	6
特になし	5

3）起床後の最初のトイレの自己決定

①だいたいいつも，家の人に言われてトイレに行きます．
②家の人に言われて行くのと，子どもが自分から行くのとが，半分ぐらいです．
③だいたいいつも，自分からトイレに行きます．

Table 30は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア　いずれの学年の児童も，約95％が「自分からトイレ」に行っている．

イ　しかし，4年，5年，6年でも，「家の人に言われてトイレにいく」児童がごく少数ながらいて，また「家の人に言われて」と「自分から」とが半々の児童も4年，5年では少数いる．

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

Table 30　朝の起床後のトイレの自己決定の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人に言われる	②半々である	③自分から行く
4年	4 (1.5)	13 (4.9)	249 (93.6)
5年	1 (0.3)	12 (3.3)	350 (96.4)
6年	1 (0.6)	1 (0.6)	199 (98.8)

$x^2=13.95$　$df=4$　$p<0.05$

4）起床後の着替えの自己決定

①家の人に「早く着がえなさい，早く食事をしなさい」と言われて，着がえをしたり，食事をしたりするほうです．
②家の人から何も言われず自分から，着がえをしたり，食事をしたりするほうです．

Table 31は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる。

Table 31　朝の起床後の着替えや食事の自己決定の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人に言われてする	②自分から着替えや食事をする
4年	91 (34.3)	174 (65.7)
5年	94 (26.0)	267 (74.0)
6年	46 (23.0)	155 (77.0)

$x^2=11.69$　$df=2$　$p<0.05$

ア　4年と5年，6年の違いがあらわれている．4年では，「家の人に言われて着替えや食事をする」児童が約35％であるが，5年，6年ではその割合は減少し，25％前後になっている．

イ　「自分から着替や食事をする」児童は，4年では約65％であるが，4年，5年ではその割合が上がり，5年，6年では75％前後になっていいる．

Table 32は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家に人に言われて着替えや食事をする」児童は男子に多く，「自分から着替えや食事をする」児童は女子に多い．

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

Table 32　朝の起床後の着替えの自己決定の性別結果：人数と(％)

	①家の人に言われてする	②自分から着替える
男子	143 (34.4)	273 (65.6)
女子	88 (21.4)	323 (78.6)

$x^2=18.24$　$df=1$　$p<0.01$

5）朝起きて身に付ける服やクツシタの選択の自己決定

①ほとんどいつも，家の人が用意した服やクツシタを身に着けます．
②家の人が用意するのと，自分で選ぶのとが，半分ぐらいです
③ほとんどいつも，自分で選んだ服やクツシタを身に着けます．

Table 33は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 33　朝身に付ける服やクツシタの選択の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
4年	39 (14.7)	89 (33.5)	138 (51.9)
5年	36 (9.9)	97 (26.7)	230 (63.4)
6年	21 (10.5)	36 (17.9)	144 (71.6)

$x^2=24.26$　$df=4$　$p<0.01$

ア　「家の人が用意した服やクツシタを身に着ける」児童は，4年では約15％であるが，学年が上がるにつれて，その割合は減少し，5年，6年では約10％となる．

イ　「自分が選んだ服やクツシタを身に着ける」児童は，4年では約50％であるが，学年が上がるにつれて，その割合は増大し，5年では60％強，6年では約70％となる．

Table 34は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家の人が用意した服やクツシタを身に着ける」児童は女子よりも男子に多く，他方「自分が選んだ服やクツシタを身に着ける」児童は男子よりも女子に多い．

Table 34　朝身に付ける服やクツシタの選択の性別結果：人数と(％)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
男子	65 (15.6)	132 (31.7)	220 (52.7)
女子	31 (7.5)	90 (21.8)	292 (70.7)

$x^2=31.08$　$df=2$　$p<0.01$

Table 35は，上の質問に対するきょうだい位置別の回答を示す．「家の人が用意した服やクツシタを身に着ける」児童はどのきょうだい位置でもほぼ同じであるが，他方「自分が選んだ服やクツシタを身に着ける」児童は中間子に多い．

なお，上記の質問に対する結果は，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られない．

Table 35　朝身に付ける服やクツシタの選択のきょうだい位置別結果(％)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
一人子	8 (11.9)	23 (34.3)	36 (53.7)
末　子	46 (12.8)	97 (27.0)	216 (60.2)
中間子	8 (8.0)	11 (11.0)	81 (81.0)
長　子	34 (11.3)	90 (29.7)	179 (59.0)

$x^2=25.03$　$df=6$　$p<0.05$

6）朝起きて身に付ける服やクツシタの自己決定の選好

朝，身に着ける服やクツシタは，どちらのほうが好きですか？
①家に人に選んでもらうほうが好きです．
　そのわけ（　　）
②自分で選ぶほうが好きです．
　そのわけ（　　）

Table 36は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 36　朝身に付ける服やクツシタの選択の選好の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人が選択するのが好き	②自分が選択するのが好き
4年	44 (16.5)	222 (83.5)
5年	49 (13.5)	313 (86.5)
6年	19 (9.4)	183 (90.6)

$x^2=5.00$　$df=2$　$p<0.10$

ア　「家に人に選んでもらうほうが好きな」児童は，4年では15％以上いるが，学年が上がるにつれて少し減少し，6年では約10％である．

イ　他方，「自分で選ぶほうが好きな」児童は，4年では80％強であるが，学年が上がるにつれて少し増加し，6年では約90％である．

ウ　前問のTable 33の結果と比較すると，「自分で選ぶほうが好きな」児童が実際に「自分でする」児童よりも，各学年とも約20～30％ほど多い．このことは，「好き」だけど実際には行っていない児童がかなりいることを示していよう．

Table 37は，「自分で選ぶほうが好き」とする理由を整理したものである．「好きなものが着れる」が圧倒的に多く，「親のセンスが悪い，趣味が合わない」や「自分の好みで選びたい」などが続き，自由を求める気持や自分のセンスに対する自信などが

Table 37 「自分が服やクツシタを選択するのが好き」な理由：頻度(5以上)

好きなものが着られる	184
親はセンスが悪い	50
家の人が選ぶのと趣味が合わない	37
自分の好みで選びたい	29
気候にあった服を選べる	15
自分で選びたいから	15
好みで自由に選べる	13
自分で選んだほうがいいから	13
その時の気分によって好きなものが着られる	11
いいものが選べるから	8
自分の着るものだから	6
好きな色が選べる	6
気にいらない服は着たくない	5
家の人に選んでもらうのは嫌だから	5
特になし	33

主な内容となっていることがわかる.

Table 38は,「家に人に選んでもらうほうが好き」とする理由を整理したものである.「自分で選ぶと面倒臭い」「自分で選ぶと，組み合わせなど変になるから」「気候など点で安心できるから」などが多く，親への依存と信頼や自分のセンスの不足を主な内容としていることがわかる.

なお，上記の質問に対する結果は，性別，母親の仕事別,父親の様子別などによる違いが見られない.

Table 38 「家の人に服やクツシタを選んでもらうのが好き」な理由：頻度(3以上)

面倒臭い	16
自分で選ぶと(組み合わせ)変になるから	10
母のセンスがいい	5
時間がなくなるから	3
気候などの点で安心できるから	3
自分で選ぶとセンスが悪いと言われるから	3
組み合わせがわからないから	3
特になし	4

7）服やクツシタの購入の自己決定

ふだん身に着ける服やクツシタは，お店でどのように求めていますか？
①ほとんどいつも，家の人が選びます.
②家の人が選ぶのと,子どもが自分で選ぶのとが,半分ぐらいです
③ほとんどいつも，自分で選んでいます.

Table 39は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる.

Table 39 服やクツシタの購入の自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
4年	74 (27.9)	156 (58.9)	35 (13.2)
5年	64 (17.7)	235 (65.1)	62 (17.2)
6年	39 (19.4)	111 (55.2)	51 (25.4)

$x^2=19.85$　$df=4$　$p<0.01$

ア 「服やクツシタを家の人が選ぶ」児童は4年では約30%弱であるが,学年が上がると少なくなり，5年，6年とも20%を下回っている.
イ 「家の人が選ぶのと，自分で選ぶのとが半々ぐらいの」児童は各学年とも約60%を占めている.
ウ 「自分で選ぶ」児童は，4年では10%と少しであるが，学年が上がるとともに増加し，6年では約25%になっている.

Table 40は，上記の質問に対する性別の回答を示す.「服やクツシタを家の人が選ぶ」児童は女子よりも男子に多いが，そのぶん「家の人が選ぶのと，自分で選ぶのとが半々ぐらいの」児童が男子よりも女子に多い．また,「自分で選ぶ」児童は男子と女子では違いがない.

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった.

Table 40 服やクツシタの購入の自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人が選択する	②半々である	③自分が選択する
男子	114 (27.5)	226 (54.5)	75 (18.1)
女子	63 (15.3)	276 (67.0)	73 (17.7)

$x^2=19.69$　$df=2$　$p<0.01$

8）家での学習の開始の自己決定

①だいたいいつも，家の人から言われて勉強を始めます.
②家の人から言われて始めるのと，自分から始めるのとが，半分ぐらいです.
③だいたいいつも，自分から始めようと思って，勉強を始めます.

Table 41は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる.

ア 「家の人から言われて勉強を始める」児童は4

Table 41　家での学習の開始の自己決定の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人に言われてする	②半々である	③自分から開始する
4年	54 (20.3)	139 (52.3)	73 (27.4)
5年	49 (13.5)	185 (51.1)	128 (35.4)
6年	28 (13.9)	107 (53.2)	66 (32.8)

$x^2=8.16$　$df=4$　$p<0.10$

年では20％であるが，学年が上がると少し減少し，5年，6年では13％になっている．

イ　「家の人から言われて始めるのと，自分から始めるのとが，半分ぐらい」の児童は，4年，5年，6年とでほとんど変わりなく，約50％である．

ウ　「自分から勉強を始める」児童も，学年によって大きな変わりはなく，各学年とも30％前後である．

Table 42は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家の人から言われて勉強を始める」児童は女子よりも男子に多く，他方「自分から勉強を始める」児童は男子よりも女子にやや多い．

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

Table 42　家での学習の開始の自己決定の性別結果：人数と(％)

	①家の人に言われてする	②半々である	③自分から開始する
男子	89 (21.3)	209 (50.1)	119 (28.5)
女子	42 (10.2)	222 (53.9)	148 (35.9)

$x^2=20.37$　$df=2$　$p<0.01$

9）家での学習の開始の自己決定の選好

家で勉強を始めるときは，どちらのほうが好きですか？
①家の人に言われて勉強を始めるほうが好きです．
　そのわけ（　　）
②自分から始めようと思って，勉強を始めるほうが好きです．
　そのわけ（　　）

Table 43は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア　「家の人から言われて勉強を始めるのが好きな」児童は4年では約15％であるが，学年が上がると少し減少し，5年，6年では10％未満となっている．

Table 43　家での学習の開始の自己決定の選好の年齢別結果：人数と(％)

	①家の人に言われてするのが好き	②自分から開始するのが好き
4年	41 (15.7)	222 (84.3)
5年	35 (9.7)	326 (90.3)
6年	18 (9.0)	183 (91.0)

$x^2=8.41$　$df=2$　$p<0.10$

イ　他方，「自分から勉強を始めるのが好きな」児童は，学年によって大きな変わりはないが，4年では約85％が5年，6年では約90％になっている．

ウ　前問のTable 41の結果と比較すると，「自分から勉強を始めるのが好きな」児童の割合は「自分から勉強を始める」児童と「家の人から言われて始めるのと，自分から始めるのとが，半分ぐらい」の児童の割合を足し合わせた数にほぼ対応する．これは，本当は「自分から勉強を始めるのが好き」だけれど，実際は「家の人から言われて始めるのと，自分から始めるのとが，半分ぐらい」になっているほうが多いという実態を示していると考えられる．また，「家の人から言われて勉強を始めるのが好きな」児童は少し割合が少ないものの，ほぼ「家の人から言われて勉強を始める」児童の割合に相当する．このことは，「家の人から言われて勉強を始める」児童は，その心情においても「家の人から言われて勉強を始めるのが好きな」子どもになっていくことの可能性を示唆していると思われる．

Table 44は，「家の人から言われて勉強を始めるのが好きな」理由と「自分から勉強を始めるのが好きな」理由を整理したものである．「家の人から言われて勉強を始めるのが好き」とする上位の理由は「忘れているときがあるから」「言われないと面倒になってしまうから」「言われないとできない」「やりたくないけれど言われて勉強する」などで，勉強の開始に対する自己効力感の不足や自分の意志の欠如が主な内容となっている．一方「自分から勉強を始めるのが好き」とする上位の理由は「一々言われると嫌になる」「うるさく言われないですむ」「好きなときにできる」「ひとに言われるとやる気がでない」「やる気がでてくる」などで，自由を求めたり自己決定のポジティブな結果を期待する気持が主な内容となっている．

Table 45は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家の人から言われて勉強を始めるのが好きな」児童は女子よりも男子にやや多く，他方「自分から勉強を始めるのが好きな」児童は男子よりも女子に

Table 44　家での学習の開始の自己決定の選好の理由

A「家の人に言われて勉強を始めるのが好き」な理由：頻度(2以上)	
忘れているときがある	9
言われないと面倒になってしまうから	7
言われないとできない	7
やりたくないけど言われたからやる	5
やる気になる	3
しゃきとなる	3
やらなくてもよいときがある	2
教えてもらったりできる	2
特になし	9
B「自分から勉強を始めるのが好き」な理由：頻度(3以上)	
いちいち言われるといやになる	62
うるさく言われないですむ	46
好きなときにできる	44
人に言われるとやる気がでない	43
やる気がでてくる	40
親に怒られない	36
自分で始めると気分がいい	40
はかどる	20
あとでほめられるから	13
やる気のあるときにできる	10
自分から始めると早く終わる	9
集中できるから	8
時間の調節ができるから	8
早く終わらせて遊びたいから	6
早く終わらせてゆっくりしたいから	6
習慣がついているから	5
計画的にできるから	3
特になし	48

Table 45　家での学習の開始の自己決定の選好の性別結果：人数と(%)

	①家の人に言われてするのが好き	②自分から開始するのが好き
男子	59 (14.2)	356 (85.8)
女子	35 (8.8)	375 (91.2)

$x^2=8.61$　$df=2$　$p<0.05$

やや多い.

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった.

10) 家での学習の内容の自己決定

①だいたいいつも，家の人から言われた内容の勉強をしています.
②家の人から言われた内容と，自分で決めた内容とが，半分ぐらいです.
③だいたいいつも，自分で決めた内容の勉強をしています.

Table 46は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる.

Table 46　家での学習の内容の自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人に言われた内容	②半々である	③自分で決めた内容
4年	40 (15.7)	100 (39.3)	115 (45.0)
5年	28 (7.8)	114 (31.7)	218 (60.6)
6年	13 (6.4)	34 (16.8)	115 (76.7)

$x^2=52.78$　$df=4$　$p<0.01$

ア「家の人から言われた内容の勉強をする」児童は4年では約15%ほどいるが，学年が上がると減少し，5年，6年では約7%程度になる.

イ「自分で決めた内容の勉強をする」児童は4年では約45%であるが，学年が上がるにつれて増加し，5年は約60%，6年では約75%になっている.

Table 47は，上記の質問に対する性別の回答を示す.「家の人に言われた内容を勉強する」児童は女子よりも男子にやや多く，他方「自分で決めた内容の勉強をする」児童は男子よりも女子にやや多い.

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった.

Table 47　家での学習の内容の自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人に言われた内容	②半々である	③自分で決めた内容
男子	51 (12.4)	132 (32.1)	228 (55.5)
女子	30 (7.5)	116 (28.6)	260 (63.9)

$x^2=9.56$　$df=2$　$p<0.05$

11) 家での学習の時間の自己決定

①だいたいいつも，家の人に言われた時間のあいだ勉強します.
②家の人から言われた時間のあいだ勉強する場合と，自分が決めた時間のあいだ勉強する場合とが，半分ぐらいです.
③だいたいいつも，自分で決めた時間のあいだ勉強します.

Table 48は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 48　家での学習の時間の自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人に言われた時間	②半々である	③自分で決めた時間
4年	28 (10.6)	58 (22.0)	178 (67.4)
5年	29 (8.0)	71 (19.6)	262 (72.4)
6年	9 (4.5)	28 (13.9)	165 (81.7)

$x^2=12.77$　$df=4$　$p<0.05$

ア　「家の人に言われた時間のあいだ勉強する」児童は，4年では約10%いるが，学年が上がるにつれて，その割合は少なくなり，6年では約5%になっている．

イ　他方，「自分で決めた時間のあいだ勉強する」児童は，4年では70%弱であるが，学年が上がるにつれて，その割合は多くなり，5年では70%を越し，6年では80%以上になっている．

Table 49は，上の質問に対する性別の回答を示す．「家の人に言われた時間のあいだ勉強する」児童は女子よりも男子にやや多く，「自分で決めた時間のあいだ勉強する」児童は男子よりも女子にやや多い．

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られない．

Table 49　家での学習の時間の自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人に言われた時間	②半々である	③自分で決めた時間
男子	46 (11.0)	76 (18.2)	295 (70.7)
女子	20 (4.9)	81 (19.7)	310 (75.4)

$x^2=10.73$　$df=2$　$p<0.01$

12) 学習塾の自己決定

①だいたい家の人が決めました．
②家の人と自分とが，だいたい半分ぐらいずつ決めました．
③だいたい自分が決めました．
④塾に行っていません．

Table 50は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア　4年で約60%，5年，6年で約50%の児童が，学習塾に行っていない．

イ　4年では，「自分が決めて学習塾に行っている」児童は，約10%であるが，5年，6年では約15%程度になっている．「自分が決めて学習塾に行っている」児童の各学年の割合は，「家の人が決めて行く」児童の割合とほぼ同じである．

ウ　「家の人と子どもとが半々ぐらいで決めて行っている」児童が学習塾にいっている児童の中で最も多く，各学年20%前後いる．

Table 50　学習塾に行くことの自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人が決めた	②半々である	③自分で決めた	④行っていない
4年	28 (10.6)	39 (14.8)	30 (11.3)	168 (63.3)
5年	38 (10.6)	75 (20.9)	60 (16.7)	186 (51.8)
6年	31 (15.5)	49 (24.5)	29 (14.5)	91 (45.5)

$x^2=21.52$　$df=6$　$p<0.01$

Table 51は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家の人が決めて行く」児童は女子よりも男子にやや多い．また「学習塾に行っていない」児童は男子よりも女子にやや多い．

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

Table 51　学習塾に行くことの自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人が決めた	②半々である	③自分で決めた	④行っていない
男子	63 (15.2)	85 (20.5)	57 (13.8)	209 (50.5)
女子	34 (8.3)	78 (19.1)	62 (15.1)	236 (57.5)

$x^2=11.81$　$df=3$　$p<0.05$

13) 習いごとの自己決定

①だいたい家の人が決めました．
　どのような習いごとですか？（　　）
②家の人と自分とが，だいたい半分ぐらいずつ決めました．
　どのような習いごとですか？（　　）
③だいたい自分が決めました．
　どのような習いごとですか？（　　）
④習いごとに行っていません．

Table 52は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア　「習いごとに行っていない」児童は，4年，5年，6年で約20%前後であり，その割合に学年の違いはあまり見られない．

イ　「家の人が決めて習いごとに行っている」児童は，4年，5年で約10%いるが，6年では約20%ぐらいに少し増えている．

Table 52　習いごとに行くことの自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人が決めた	②半々である	③自分で決めた	④行っていない
4年	36 (13.8)	88 (33.8)	90 (34.6)	46 (17.7)
5年	38 (10.6)	116 (32.5)	130 (36.4)	73 (20.4)
6年	36 (17.9)	56 (27.9)	63 (31.3)	46 (22.9)

$x^2=8.96$　$df=6$　$p>0.05$

ウ　「自分が決めて習いごとに行っている」児童は，4年，5年，6年とも約30%と少しであり，その割合に学年の違いはあまり見られない．

Table 53は，上記の質問に対する性別の回答を示す．「家の人が決めて習いごとに行っている」児童は，女子よりも男子に多く，「家の人と子どもとが，半分ぐらいずつ決めて行っている」児童は男子よりも女子に多い．しかし，「自分が決めて習いごとに行っている」児童および「習いごとに行っていない」児童の割合には違いが見られていない．

Table 53　習いごとに行くことの自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人が決めた	②半々である	③自分で決めた	④行っていない
男子	74 (17.9)	100 (26.6)	142 (34.4)	67 (21.1)
女子	36 (8.9)	150 (37.0)	141 (34.8)	78 (19.3)

$x^2=19.69$　$df=3$　$p<0.01$

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．また，習いごとの種類は，最も多い順から習字，ピアノ，スイミング，英語であるが，これらは「家の人が決めた習いごと」にも，「子どもが決めた習いごと」にも，したがって「家の人と子どもとが，だいたい半分ぐらいずつ決めた習いごと」にも上位4位のなかに含まれている．その他頻度の少ない習いごとの種類でも，「自己決定に特有の習いごと」のようなものは見られない．

14) 習いごとや学習塾の自己決定の選好

習いごとや塾に行くことを，家の人に決めてもらうほうが好きですか，それとも自分で決めるほうが好きですか？
①家の人に決めてもらうほうが好きです．
　そのわけ（　　）
②自分で決めるほうが好きです．
　そのわけ（　　）

Table 54は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 54　習いごとや学習塾の自己決定の選好の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人に決めてもらうのが好き	②自分で決めるのが好き
4年	29 (11.2)	233 (88.8)
5年	35 (9.9)	320 (90.1)
6年	19 (10.0)	179 (90.0)

$x^2=1.94$　$df=2$　$p>0.05$

ア　「自分で決めるほうが好きな」児童は，4年，5年，6年で約90%であり，その割合に学年の違いは見られない．

イ　「家の人に決めてもらうほうが好きな」児童は，4年，5年，6年で約10%であり，学年の違いは見られない．

Table 55は，「習いごとや学習塾の自己決定の選好」の理由を整理したものである．「家の人に決めてもらうほうが好き」な主な理由は，「自分にあったものを選んでもらえる」「何をするのかを考えるのが面倒」「自分で決めるとだめなときがあるから」など，自己決定効力感の不足や欠如を示す内容が目立つ．一方，「自分で決めるほうが好き」な主な理由は「やりたいことができるから」「行きたいところにけるから」「好きなことをやらせてもらいたい」など，自由を求める内容が目立つ．

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

15) クラブ活動の選択の自己決定

今年，どのクラブ活動をするのかを決めるとき，どうでしたか？
①家の人や先生，友だちに言われて，クラブ活動を決めました．
　＊どの人の意見が一番の決め手になりましたか？
　　（　）家の人　（　）先生　（　）友だち
②ほかの人の意見と自分の判断とが，だいたい半分ぐらいです．
③だいたい自分で判断して決めました．

Table 56は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア　「家の人や先生，友だちに言われて，クラブ活動を決めた」児童は，4年，5年で約14%であるが，6年では10%となり，その割合は学年が上がると下がっている．

イ　他方，「自分で判断して決めた」児童も，4年

Table 55　習いごとや学習塾の自己決定の選好の理由

A 「家の人に決めてもらうのが好き」な理由：頻度(2以上)	
自分にあったものを選んでもらえるから	8
何をするかを考えるのが面倒	5
自分で決めるとだめなときがあるから	5
自分だと迷ってしまう	3
親の言うことは正しいから	3
安心できる	2
親が月謝を払うから	2
自分が決めると親がだめと言うから	2
行きたくなくても行かなきゃいけないから	2
特になし	6
B 「自分が決めるのが好き」な理由：頻度(3以上)	
やりたいことができるから	141
行きたいところに行けるから	104
好きなことをやらせてもらいたい	28
勝手に決められるのは嫌	20
自分で決めれるから	19
やる気がでるから	19
楽しくできるから	17
無理やりに行かせられたくない	17
自分に合うものがいいから	13
いやいや行きたくないから	9
友だちのいる所を選べるから	8
自分の事だから	7
自分で決めるほうが長く続く	6
やりたいときにやれる	5
嫌なものはやっても仕方がないから	4
やりたいもののほうが頑張れるから	3
人に言われてやるのは好きではない	3
自分で決めないとやりたくない	3
特になし	35

Table 56　クラブ活動の選択の自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人・先生・友だち	②半々である	③自分で決めた
4年	36 (13.8)	40 (15.2)	188 (71.0)
5年	51 (14.1)	112 (30.9)	199 (55.0)
6年	20 (10.0)	78 (38.8)	103 (51.2)

$x^2=38.84$　$df=4$　$p<0.01$

で約70%であるが，5年，6年で約50%になり，その割合は学年が上がると下がっている．

ウ 「ほかの人の意見と自分の判断とが半分ぐらいの」児童が，4年では15%程度であるが，5年，6年では30%以上になり，学年が上がると上がっている．

Table 57は，「家の人や先生，友だちに言われて，クラブ活動を決めた」ときの「決め手」の学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．「家の人」は4年では約20%であるが，5年，6年では少なくなり，6年では0である．他方，「友だち」が決め手として増え，4年では約65%であるが，5年，6年では約80%以上になる．「先生」は5年で少なくなっているが，学年による傾向は見られない．

Table 57　クラブ活動の選択の「決め手」の年齢別結果：人数と(%)

	①家の人	②先生	③友だち
4年	6 (21.4)	4 (14.3)	18 (64.3)
5年	3 (6.8)	2 (4.5)	39 (88.6)
6年	0 (0.0)	3 (16.7)	15 (83.3)

$x^2=9.82$　$df=4$　$p<0.05$

Table 58は，上記の質問に対する性別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 58　クラブ活動の選択の自己決定の性別結果：人数と(%)

	①家の人・先生・友だち	②半々である	③自分で決めた
男子	54 (12.9)	93 (22.3)	270 (64.7)
女子	53 (13.0)	137 (33.4)	200 (53.6)

$x^2=14.48$　$df=2$　$p<0.01$

ア 「家の人や先生，友だちに言われて，クラブ活動を決めた」児童の割合は，男女でほとんど違いがない．

イ ところが，「自分で判断して決めた」児童は，女子よりも男子に多い．その反対に，「ほかの人の意見と自分の判断とが半分ぐらいの」児童は，男子よりも女子に多い．

なお，上記の質問に対する結果は，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

16) 学級の係りの自己決定

学級で係りを決めるとき，あなたはどちらのほうですか？
①学級で決まった係りを引き受けるほうです．
②自分がやってみたかったり，自分に合っていた

りする係りを自分で判断して学級に申し出るほうです.

Table 59は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる.

Table 59　学級の係りの自己決定の年齢別結果：人数と(%)

	①学級にまかせる	②自分で考えた係を申し出る
4年	240 (90.2)	26 (9.8)
5年	250 (69.6)	109 (30.4)
6年	138 (73.8)	49 (26.2)

$x^2=39.96$　$df=2$　$p<0.01$

ア「自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して申し出る」児童は，4年で90%であるが，学年が上がると減少し，5年，6年では約70%になる.

イ　他方，「学級で決まった係りを引き受ける」児童は，4年で10%であるが，5年，6年で約30%近くになり，その割合は学年が上がると上がっている.

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった.

17) 学級会で話し合うテーマについての自己決定の選好

①先生が決めたテーマで話し合うほうが好きです.
　そのわけ（　　）
②自分が考えたテーマで話し合うほうが好きです.
　そのわけ（　　）

Table 60は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．4年，5年，6年で，「先生が決めたテーマで話し合うほうが好きな」児童は約40～50%であり，「自分が考えたテーマで話し合うほうが好きな」児童は，50～60%である．学年による違いは，ほとんど見られない.

Table 60　学級会のテーマの自己決定の選好の年齢別結果：人数と(%)

	①先生が決めたほうが好き	②自分で考えたほうが好き
4年	122 (45.9)	144 (54.1)
5年	145 (40.7)	212 (59.3)
6年	88 (47.3)	98 (52.7)

$x^2=4.12$　$df=2$　$p>0.05$

Table 61は，それらの理由を整理したものである．「先生が決めたテーマで話し合うほうが好き」とした理由の主なものは，「考えなくてもいいから」「決めるのに時間がかからないから」「自分では思い付かない」「いいテーマがでるから」「話し合いがスムーズに進むから」など，自分の能力の不足や教師への

Table 61　学級会のテーマの自己決定の選好の理由

A「先生が決めたテーマで話し合うのが好き」な理由：頻度(3以上)	
考えなくてよいから	21
決めるのに時間がかからない	17
自分では思いつかない	12
楽だから	10
先生のほうがいいテーマが出るから	10
スムーズに進むから	10
決めるのが面倒だ	9
先生が決めたほうがわかりやすい	8
みんなの意見が合うから	6
まとまっているから	6
みんなバラバラにならないから	6
先生が決めたほうがいい意見が出るから	5
先生の言うことは正しいから	4
自分も納得するから	4
初めから決まっていれば話しやすい	3
提案するのが面倒だ	3
先生のほうが優先	3
自分では決められないから	3
特になし	39

B「自分が決めたテーマで話し合うのが好き」な理由：頻度(3以上)	
自分で決めたほうが楽しい	44
好きなな話しができる	31
自分の困ったことを話し合える	19
そのほうがいいから	14
自分達のやりたいことがあるから	12
話しやすい	11
自分で決めたテーマだとたくさん発言できる	9
自分たちでよく考えられるから	6
やる気になるから	5
自分の意見を出せるから	5
楽しいことをしたいから	5
いろいろな意見が出せるから	5
考えたテーマで話し合える	4
勝手に決められるのは嫌だ	3
自由に決められる	3
わかりやすい	3
特になし	50

依存を内容とするものが多い．一方，「自分が考えたテーマで話し合うほうが好き」とした理由の主なものは，「自分たちで考えた方が楽しい」「好きな話ができるから」「自分の困ったことを話し合えるから」「話しやすい」など，自己決定のポジティブな効果を期待するものが多い．

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いが見られなかった．

18）自習時間に勉強する内容についての自己決定の選好

自習時間に勉強する内容については，どうですか？
①先生が決めた内容を勉強するほうが好きです．
　そのわけ（　　）
②自分で考えた内容を勉強するほうが好きです．
　そのわけ（　　）

Table 62は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．5年を除いて，4年，6年で，「先生が決めた内容を勉強するほうが好きな」児童は約50％であり，「自分で考えた内容を勉強するほうが好きな」児童も，約50％であり，その割合はほぼ同じである．しかし，5年では「先生が決めた内容を勉強するほうが好きな」児童が少なく約35％であり，その反対には，「自分で考えた内容を勉強するほうが好きな」児童が約65％である．

Table 62　自習時間の学習内容の自己決定の選好の年齢別結果：人数と（％）

	①先生が決めたほうが好き	②自分で考えたほうが好き
4年	127 (47.9)	138 (52.1)
5年	129 (35.8)	231 (64.2)
6年	96 (51.6)	90 (48.4)

$x^2=15.71$　$df=2$　$p<0.01$

Table 63は，それらの理由を整理したものである．「先生が決めた内容を勉強するほうが好き」とした理由の主なものは，「迷わない」「いちいち考えるのが嫌」「勉強しやすい」「そのほうがみんなふざけないでやる」「しっかりできるから」など，教師への依存心や自分から学習することに対する効力感の不足を内容とするものが多い．一方，「自分で考えた内容を勉強するほうが好き」とした理由の主なものは，「好きなことができる」が圧倒的に多く，「自分の苦手な物を進められるから」「楽しいから」「自由に量が決められるから」などが続き，自由を求める気持や自己決定によるポジティブな結果を期待する内容が目立つ．

Table 63　自習時間の学習内容の自己決定の選好の理由

A　「先生が決めた内容を勉強するのが好き」な理由：頻度（3以上）	
迷わない	30
いちいち考えるのが嫌	16
そのほうが勉強しやすい	15
そのほうがふざけないでちゃんとやる	13
しっかりできるから	11
自分が決めると簡単すぎる	9
自分が決めた内容に自信がないから	7
役に立つから	7
楽だから	7
わかりやすいから	6
みんなそろってできるから	6
勉強の範囲がはっきりわかるから	6
簡単だから	5
いつもそういう勉強だから	5
そのほうがいいから	5
自分が決めると好きな科目ばかりになるから	4
人と同じなので教えてもらえる	4
いろいろな課題が出るから	3
先生が決めることだから	3
特になし	23
B　「自分が決めた内容を勉強するのが好き」な理由：頻度（3以上）	
好きなことができる	98
自分の苦手なものを進められるから	20
楽ができる	19
楽しいから	13
自由に量が決められるから	12
自分にあった勉強ができる	11
好きな勉強のほうがスムーズに進む	11
自分で決めたほうがやる気が出る	9
自分で決めたことをやりたい	8
いろいろな勉強ができるから	7
自分の進んでいないところをやりたい	7
勉強しやすい	7
無理をしなくてよい	6
自由な勉強ができる	6
自分のペースでできる	6
自分で決められるから	5
自由にできるから	4
嫌な勉強はしたくない	4
自分で考えたほうが勉強が進む	3
自分で決めたほうが進んでできる	3
特になし	20

なお，上記の質問に対する結果は，性別，きょうだい位置別，母親の仕事別，父親の様子別などによる違いは見られなかった．

考　察

この調査によって，小学生の自己決定の経験の度合いが場面によって異なることが見い出だされた．ほとんどの児童が自己決定を行っている場面をA群，ほぼ半々の児童が自己決定を行っている場面をB群，少数の児童しか自己決定を行っていない場面をC群というように分けると，以下のような結果を得ることができる．

〔小学校低学年（小1～3年)〕

A群…起床後のトイレ

B群…朝の食事，朝の着替え，朝身に付ける服やクツシタの選択，家での学習内容，家での学習時間

C群…朝の起床，服やクツシタの購入，家での学習の開始，学習塾，習いごと

〔小学校高学年（小4～6年)〕

A群…起床後のトイレ，朝の着替えや食事，家での学習時間，学級の係り

B群…朝身に付ける服やクツシタの選択，家での学習内容，クラブ活動の選択

C群…朝の起床，服やクツシタの購入，家での学習の開始，学習塾，習いごと

これらの場面のなかで最も注目を引くのは，「朝の起床」場面での自己決定である．一日の生活の始まりとなるこの「朝の起床」において，小学校1年で約25％の児童が「自分から起きようと思って起きる」が，学年が上がると，その割合はかえって低下し4年では約10％近くになり，5年，6年になっても約20％の割合しかなっていない．この「朝の起床」の自己決定は，身辺自立という観点からは「自立」(independence: 他者に依存しないで生活できる，cf. Ryan, 1994)とかかわり，また同時に自分の意志で行動するという観点からは「自律」(autonomy: 他者の意志ではなく自分の意志で動く，cf. Ryan, 1994)ともかかわる内容をもつ．こうした性格をもつ「朝の起床」において，小学生全般を通じて低い自己決定が示されたことは，注目を受けてしかるべきであろう．

また「家での学習の開始」場面での自己決定の低さも注目しうる．「自分から始めようと思って勉強を始める」児童が，小学校1年，2年で約20％の割合であることは受け止めやすいが，3年では少し減少し約15％になり，4年～6年でも約30％にとどまっているのは，学習の動機づけの自律度の発達(cf. 新井，1995)に対し悪影響を与えていくことが考えられる．この点は，今後中学生，高校生の自己決定の経験の調査を行うなかで明らかにしていきたい．

最後に性差について触れる．男児(子)が女児(子)よりも高い自己決定の経験を示した場面は皆無であり，逆に女児(子)が男児(子)よりも高い自己決定の経験を示した場面は，低学年で「朝の食事」，「朝の着替え」，「朝身に付ける服やクツシタの選択」，「服やクツシタの購入」，「家での学習の開始」の5つあり，高学年では「朝の着替えや食事」，「朝身に付ける服やクツシタの選択」，「服やクツシタの購入」，「家での学習の開始」，「家での学習内容」，「家での学習時間」の6つある．このように明確な形で女児(子)が男児(子)よりも高い自己決定の経験が示されたが，この最大原因として「家庭の中で親の指示や干渉が女児(子)よりも男児(子)に強く行われている」ことが考えられる．新井(1993)の幼児の主体性の研究においても，幼稚園教師から見て女児のほうが男児よりも全般的に主体性が高いと評価されていることが見い出だされていることを考え合わせると，自己決定の危機問題は幼児，小学生においては女児(子)よりも男児(子)において生じる可能性があることを予想させる．今後の研究で，さらに性差の検討をしていきたい．

要　約

小学1年生～6年生を対象にして「自己決定の経験」の実態を質問紙によって調査した．小学1年生～3年生には，その保護者に回答してもらい，小学4年生～6年生には児童に回答してもらった．質問紙で取り上げた自己決定の場面は，小学1年生～3年生で「朝の起床」「起床後のトイレ」「朝の着替え」「朝の食事」「朝身に付ける服やクツシタの選択」「服やクツシタの購入」「家での学習の開始」「家での学習内容」「家での学習時間」「学習塾」「習いごと」の11場面であり，小学4年生～6年生では，それらに加えて「クラブ活動の選択」「学級の係り」の13場面であった．

主な結果は，「朝の起床」「服やクツシタの購入」「家での学習の開始」「学習塾」「習いごと」などで，小学1年生～6年生を通して自己決定の経験の低いことがわかった．また，ほとんどの場面で男子の自己決定が女子よりも低いことも見い出された．

[付記]

本研究を作成するにあたり，筑波大学心理学系技

官の谷島弘仁氏の協力を得た．厚く感謝を申し上げる．

引 用 文 献

Angyal, A. 1941 *Fondations for a science of personality.* Common wealth Fund

新井邦二郎 1992 幼児の主体性の教師評定尺度の作成（1） 筑波大学心理学研究，**14**，61－74.

新井邦二郎 1995 やる気はどこから生まれるか－学習意欲の心理－ 児童心理臨時増刊号『やる気を高める本』金子書房 3-11.

deCharms, R. 1968 *Personal causation.* Academic Press

deCharms, R. 1976 *Enhancing Motivation. Irvington*（佐伯 胖訳 1980 やる気を育てる教室 金子書房）

deCharms, R. 1984 Motivation enhancement in educational settings. In R. Ames & C. Ames (Eds.) *Research on Motivation in Education. Vol.1* Academic Press

Deci, E.L. 1975 *Intrinsic Motivation.* Plenum Press（安藤延男・石田梅男訳 1980 内発的動機づけ 誠信書房）

Deci, E.L. 1980 *The psychology of self-determination.* D.C. Heath（石田梅男訳 1985 自己決定の心理学 誠信書房）

Deci, E.L. & Ryan, R.M. 1985a *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior.* Plenum Press

Deci, E.L. & Ryan, R.M. 1985b The general causal orientations scale: self-determination in personality. *Journal of Research in Personality,* **19**, 109-134.

Ryan, R.M. 1992 Agency and organization: intrinsic motivation, autonomy, and the self in psychological development. In J.E. Jacobs (Ed.) *Nebraska Symposium on Motivation: Developmental Perspective on Motivation.* The University of Nebraska Press

山地弘起 1988 動機づけにおける自己決定性の検討 東京大学教育学部紀要，**28**，317－325.

—1995．9 .30受稿—